

主 題：聖霊と私4

聖書箇所：ローマ人への手紙 8章12－13節

私たち信仰者は主なる神からすばらしい祝福をいただいています。もうすでに私たちは、この8章1節から11節までで、私たち信仰者に与えられた神からのすばらしい二つの祝福を学んで来ました。それは「新生」と「よみがえり」という祝福でした。「新生」とは新しく生まれ変わることです。私たちは聖霊なる神をいただいて新しく生まれた、生まれ変わったのです。救われたということです。同時に、私たちには「よみがえり」、復活の祝福が約束されました。もちろん、すべての人はよみがえります。罪が赦されていない人は罪のさばきを受けるためによみがえります。一方、罪が赦されている信仰者はさばきのためではなく祝福の中によみがえります。そして、主なる神から信仰者として主に従ったその行ないに対して、その信仰の歩みに対して褒美をいただくのです。私たちは第一の復活にあずかる者とされたのです。このような祝福を神は私たちに与えてくださったということを見て来ました。信仰者の皆さん、私たちは罪赦された者として、永遠に絶対に罪のさばきに会わないのです。それだけでも感謝なことです。私たちはそのことを覚えて感謝しなければならないはずで

パウロはこのすばらしい祝福について話をした後、もう一度この12－13節で、その様な祝福をいただいた信仰者としてどのように生きて行くべきなのかということをお教えしようとするのです。というのは、皆さん、信仰にとって一番大切なことは、どれだけのことを知っているのかではありません。どのように生きているかです。私たちはどのようにその真理を自らの生活に生かしているかです。ですから、パウロのみことばを見ても、また、それ以外の聖書のみことばを見ても私たちが繰り返し教えられることは、神の真理を知ったならその真理を自らの生活に生かさないということなのです。パウロはここで、すばらしい祝福をお教えしていますが、実は、この8章1－11節も「すばらしい祝福、その祝福をいただいた者としてこのように生きなさい。」ということをお繰り返しお教えして来ました。そして、最後にもう一度この12－13節で、彼はこんなに大きな祝福をいただいているのだから、いただいたあなたはどのように生きて行きなさいと、再びここでそのことをお教えるのです。

信仰者の皆さん、パウロがここで再びお教えしてくれる「新しい生き方」というのは、救われた者たちに起こる当然の結果です。神に喜ばれるこのような生き方をしたから結果的に救われるものではありません。救われたゆえに、結果として、このような新しい生き方があなたに伴って来るとそのことを言うのです。

☆新しい生き方

もう一度、12節のみことばを見てください。「**ですから、兄弟たち。私たちは、肉に従って歩む責任を、肉に対して負ってはいません。**」、新しい生き方について、パウロはここでこれまでとは違った観点から話を進めます。その観点は「責任」です。新しく生きて行くというその責任の観点からこの話を進めて行こうとするのです。

1. 服従の生活 12節

「**肉に従って歩む責任を、肉に対して負ってはいません。**」と、パウロはここで、新しい生活、新しい生き方は、まず、「服従の生活」だということをお教えます。パウロはここで、私たち信仰者はこれまで肉に対してもっていた「従う」という責任がなくなったということをお教えているのです。これまで、私たち一人ひとりがもっていた「肉に従って行く、服従して行く」というその責任がもはやなくなったということをお教えたのです。この「**肉に対して負ってはいません。**」という「**負う**」ということばですが、これは「存続している、存在している、現存している」ということばです。ですから、パウロがお教えたかったことは「かつてもっていたあなたの責任はもうない」ということです。今まであなたが抱えていた責任はなくなった、もうそれはあなたのもとから消え去ったということをお教えるのです。

パウロがこのように言ったのは「救われているから」です。救われる前には私たちはどのような生き方をしていたかと言えば、「**私たちは肉に従って歩み続けていた**」のです。肉に対して忠実に従い続けていた、肉に服従していたのです。それは肉の思いに基づいて、肉の考えに基づいて生きていたということです。私たちは何度もそのことを見て来ました、簡単に復習します。「肉」について、それは私たちの「からだ」を指して使われている箇所もありますが、ここで使われている「肉」ということばは、その人の性質のことです。人間は生まれながらに、私たちに造ってくださった創造主なる神を無視して、その方を愛するのではなく、却って自分自身を愛して、その方に仕えるのではなく自分に仕え、その方を喜ばせるのではなくて自分を喜ばせ、その方に信頼を置いて生きるのではなくて自分の力に信頼をおい

て生きるように働く性質のことです。このような性質を持って生まれてきたから、私たちはそのように生きて来たのです。神など必要としない、自分の好きなように生きて行く、自分の思い通りに生きて行く。ですから、救われる前の私たちはパウロが言うように、肉に従って肉の思いのままに生きていたのです。私たちは自分の心の中に潜むその罪の欲望のままに生きて来たのです。

パウロはそのことに関して、エペソ2：3でこのように言いました。「**私たちもみな、かつては不従順の子らの中であって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行ない、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。**」、つまり、自分のうちに内在する罪の欲望のおもむくままに生きていた、罪の奴隷として生きていた、これが神を知らない人々の特徴、罪の赦しをいただく前の人々の特徴です。この12節のみことばをもう一度見て、「**肉に従って歩む責任を**」というこの「**歩む**」という動詞の時制は現在形です。つまり、その様な生き方を継続していたということです。このような生き方がその人の生き様だったということです。何回かこのようであったというのではなく、ずっとそのように生きていた、それがその人の特徴だと言うのです。

私たちがどうしても見ておかなければいけないことばは、「**肉に従って歩む責任を**」の「**責任**」ということばです。ここで使われている「**責任**」と訳されている名詞は「負債、借金」という意味です。そのようなことばを使っているのです。なぜなら、負債や借金というのはどうしても支払わなければならないものだからです。ですから、ここでパウロが言いたいことは、どうしても私たちがしなければいけないこと、それは当時の私たちを支配していたこの罪に従い続けて行くということです。私たちがもうすでに見て来たように、私たちは罪の奴隷として生きて来たからです。ローマ8：9を見てください。「**けれども、もし神の御霊があなたがたのうちに住んでおられるなら、あなたがたは肉の中にはなく、御霊の中にいるのです。キリストの御霊を持たない人は、キリストのものではありません。**」、救いをいただく前の私たちはみな、罪の中に、肉の中にいたと言うのです。思い出してください。肉の支配下にいたということです。肉が私たちが支配していた、私たちは罪の奴隷だったと言うのです。どうすることも出来なかった、丁度、借金を負っている者が返さなくてははいけないように、肉の奴隷は肉に対して肉を喜ばせることしか出来なかった。私たちはかつてその様な生き方をしていたと言うのです。

ですから、もう一度12節を見ると、かつての肉に従って歩むというそのような生き方から私たちはすべてが変わった、私たちは生まれ変わったと言っているのです。私たちは生まれ変わったから肉に従う責任がなくなったのです。9節でも見たように、私たちは「**肉の中にはなく、御霊の中にいる**」、今度は新しい主人が与えられたのです。神が私たちの主人となったのです。ですから、私たちは今までは肉に従う者だったけれど、今は生まれ変わって主に従う者になったのです。これが救いなのです。8：4を見てください。ここにもこのように書かれています。「**それは、肉に従って歩まず、御霊に従って歩む私たちの中に、律法の要求が全うされるためなのです。**」、今私たちは9節を見ましたが、パウロはこの世界には「救われている人」と「救われていない人」の二種類の人物がいると言いました。罪が赦されている人と赦されていない人です。パウロのことばを借りるなら、4節にあるように「**肉に従って**」歩み続けている、罪に従って歩み続けている、罪の奴隷として生きている救われていない人と、御霊に従って歩んでいる人、御霊の奴隷として神の奴隷として歩んでいる人々、つまり、救われている人です。もちろん、その歩みは完璧ではありませんが、この二種類の人に分けられると言いました。

このわずか8：1-11に、パウロは何度も私たちに「**本当のクリスチャンの特徴**」について話をして来ました。本当に救われている信者は主なる神に対して従順な者たちだと。実は、そのことは主イエス・キリストご自身が言われています。ヨハネの福音書8章に、イエス・キリストを信じたと言ったユダヤ人たちとイエスが話している様子が記されています。8：47「**神から出た者は、神のことばに聞き従います。ですから、あなたがたが聞き従わないのは、あなたがたが神から出た者でないからです。**」、本当に救われている者たちは「**神のことばに聞き従います。**」、従わない者たちは「**救われていない**」と言います。主ご自身がこのように明らかに救われている者たちとそうでない者たちにはこのような特徴があることを教えているのです。

そこで、もう一度ローマ書に戻って、先ほども言った通り、この新改訳聖書では「負債」ということばが「**責任**」と訳されています。正直、これは余り好きではありません。なぜなら、「**責任**」ということばには「**義務**」という意味合いがあるからです。「**私たちはかつて肉に従う責任を負っていた。しかし、救われた今の私たちは、肉ではなく主に従う責任を負っている。**」と。なぜなら、私たちが主に従うことは責任だから従うのでも、義務だから従うのでもありません。私たちは主を愛するから喜んで従うはずです。主によって救われた信仰者たちはみな、主を愛してそのように生きたのです。詩篇40：8で著者はこのように言います。「**わが神。私はみこころを行なうことを喜びとします。あなたのおしえは私の心のうちにあります。**」と、神のみこころに従って行くことが喜びだと言うのです。ヨハネ14：15、21、23を

見てください。ここでも主イエス・キリストが非常に大切なことをお話になっています。「:15 もしあなたがたがわたしを愛するなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです。」、「:21 わたしの戒めを保ち、それを守る人は、わたしを愛する人です。わたしを愛する人はわたしの父に愛され、わたしもその人を愛し、わたし自身を彼に現わします。」、「:23 イエスは彼に答えられた。「だれでもわたしを愛する人は、わたしのことばを守ります。そうすれば、わたしの父はその人を愛し、わたしたちはその人のところに来て、その人とともに住みます。」これらのみことばが私たちに教えていることは、主を愛する人々は主の教えに従って行く、主の教えに従って行くのは、彼らが救われているからだということです。神がその内に住むのです。私たちが見て来たように、聖霊なる神をいただいているのはクリスチャンです。だから、救われているのです。そして、救われた私たちは主を愛するゆえに、その方の教えに従って行きたいのです。従って行こうとするのです。

ですから、かつての私たちは罪の奴隷でした。選択肢がなかった。私たちがすることは罪に罪を重ねることでした。しかし、生まれ変わった私たちは、私たちが罪から救ってくださった主を愛するゆえに、この方に従って行こう、この方を喜ばせて行こうと、そのように生きて行きます。私たちが主の教えに従うのは主に心から感謝しているからです。主のすばらしい恵みを覚えて、その恵みに心から感謝しているからです。「神さま、私はもっとあなたに忠実でありたい。もっとあなたに喜ばれることをして行きたい。」と、皆さんはそのように歩んでいらっしゃるのではないですか？ここで皆さんに考えていただきたいことは、もし、あなたの内に主なる神よりも愛するものがあれば、聖書はそれを偶像だと言います。もし、あなたに主なる神よりも大切なものがあるなら、それはあなたの偶像なのです。もし、あなたが主の栄光のためにすべてのことをしていなければ、あなたのしていることは罪なのです。例えば、この世の中には本当に献身的にいろいろな働きを為さる方々がいます。ボランティアでいろいろな活動をしておられます。なぜ、そのような働きをするのでしょうか？窮地にある人々を見て本当にあわれみの気持ちから、彼らを愛するゆえにだれもが真似できないようなすばらしい働きをしておられます。でも、それはだれのためにしているのかを考えなければいけません。私たちは神の栄光のために造られ生まれてきました。すべてのことを神の栄光のためにする者として造られ生かされているのです。ですから、どんなにすばらしい働きをして、人々がそのことを称賛しても、問題は神が何と言われるかです。神の栄光のためにしないなら「あなたは間違っている。あなたを造った目的から外れている。わたしの栄光のためにすべてのことを為しなさい。」と神は言われます。人に感銘を与えても神に喜んでいただけるかどうかです。

あなたの生活はどうか？神以上に大切なものはありますか？すべてのことを神の栄光のためにしていらっしゃるでしょうか？皆さん、神を愛するということは、今見てきた様に、神の教えに従って行くことです。ひょっとしたら、私たちが「神さま、あなたのことを愛します。」と口に出すときに、神は耳を覆ってあなたのそのことばは聞きたくないと、そのように言われていませんか？神の関心は私たちが何を言うかではなくて、私たちがどのように生きるかです。確かに、失敗だらけです。失敗に次ぐ失敗で、自分を見ると嫌になってしまいます。しかし、私たちの心のうちには強い願いがあるのです。「それでも神に喜ばれることをして行きたい。だから、罪から離れよう、そして、神が喜んでくださることを行ない続けて行こう。」と。それが私たちの生き方なのです。それが主が望んでおられる生き方なのです。

このように皆さんは主を礼拝しておられます。もちろん、毎日が礼拝ですが、特に、私たちは週の初めの日に主を覚えて復活の主を崇めるために集まって来ます。あなたは喜んで礼拝をささげておられますか？何よりも礼拝を優先していますか？自分の都合が良い時だけ礼拝しましょうと、そのようなことになっていませんか？主を証することはどうですか？本当はもっとイエス・キリストのことを語りたいけれど勇気がない恥ずかしい…。主に仕えること、奉仕においてはどうですか？あなたは積極的に為していますか？ささげ物に関してはどうですか？主が託されたものを神のために用いておられますか？神が「天に宝を積むように」と言われた様にされていますか？今、敢えて、このようリストを上げたわけは、私たちは神を愛していると言うことは簡単ですが、実際にしていることを一つ一つ吟味して、どのような動機でしているのかを考えるためです。私たちが口で言っている通りに、その思いをもってしているかどうか、そこに気がつきます。パウロが何度も私たちにチャレンジすること、それは、あなたがしていることはあなたの心から出て来ているものなのかどうかということです。あなたは主を愛するゆえに、すべてのことをしているかどうかです。

今見て来たように、主を愛する者は神に従って行こうとします。形だけ主に仕えることは出来ます。でも、その不信仰を神はお喜びになりません。神の関心は私たちが神の為してくださったみわざに対して、心から感謝しているかどうか、喜んでしているかどうか、この主を愛しているかどうかです。パウロはどのように生きた人物です。イエス・キリストの復活を話したパウロ、I コリント 15 章に記されていま

すが、その後で、パウロは自分に関してこのようなことを言っています。イエス・キリストは死からよみがえって多くの人々の前に現われたことを話した後、彼はこのように言います。I コリント 15 : 8 - 10 「そして、最後に、月足らずで生まれた者と同様な私にも、現われてくださいました。」、未熟児だと言います。助けがなければ生きることができない、そのように弱い者だったとパウロは言うのです。そのような私にも主は現われてくださったと。その後「:9 私は使徒の中では最も小さい者であって、使徒と呼ばれる価値のない者です。なぜなら、私は神の教会を迫害したからです。」、パウロは自分の罪深さをよく理解していました。「私は神さまから何かご好意をいただけるような資格はないです。クリスチャンたちを迫害したのは私です。神に逆らい続けて来たのは私です。こんな私が神さまから何かすばらしい祝福をいただくなど、そんな資格は私にはありません。」と、このように言ったパウロ、10節を見てください。「:10 ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。」、しかし、こんな私を神は救ってくださったと言います。「そして、私に対するこの神の恵みは、むだにはならず、私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。」、パウロの感謝は具体的な行ないとなって出て来たのです。パウロは神に心から感謝し、神を愛するゆえにそれが彼自身の生き方となって現われたのです。少なくとも、パウロの心の中にはこの主に対する感謝があふれていたことを、私たちは見て取ることが出来ます。そして、最後に彼はこのように付け加えています。「しかし、それは私ではなく、私にある神の恵みです。」と、神がその様な働きをさせてくれているとパウロは言いますが、パウロ自身の心の中には神のみわざに対する感謝があることは事実です。

あなたはいかがですか？主イエス・キリストが為してくださったすばらしい救いのみわざに対して、パウロはこのように教えます。「あなたはすばらしい祝福をいただいた。その祝福をいただいた者として、私たちはこの神に対してどのように生きて行くのか？」と。詩篇の著者はこのように言います。116 : 12 - 13 「主が、ことごとく私に良くしてくださったことについて、私は主に何を返ししょうか。:13 私は救いの杯をかかげ、主の御名を呼び求めよう。」、この著者も神の為してくださったすばらしい恵みのみわざに感謝して、では、それをどのように表わせばよいのか？彼は感謝を表わします。「その方を誉め称えよう。その方を心から礼拝しよう。」と。信仰者は強制的にするものではありません。喜んでします。なぜなら、彼らは神からどのような祝福をいただいたか、そのことをしっかりと覚えていたからです。生まれ変わった私たち、信仰者の皆さん、私たちはこの主に従う者として生まれ変わったのです。かつては罪に対して従順でした。でも、生まれ変わった私たちは、私たちを救ってくださった主に対して従順に生きて行く者となったのです。パウロはまず、そのことを私たちに言います。

2. 聖潔の生活 12節

聖さです。8 : 4に「それは、肉に従って歩まず、御霊に従って歩む私たちの中に、律法の要求が全うされるためなのです。」、「全うされる」と、思い出してください。パウロはここでキリスト者の真の目標が何であるかを教えたのです。クリスチャンは何のために生きているのか、その目標を教えたのです。それは「律法の要求が全うされるため」、律法を完全に守って行くことです。なぜなら、それは神が喜んでくださることであり、そして、私たちがその様に歩んで行くことによって、私たちは間違いなく益々主に似た者となるからです。あなたは喜んで主に従う者として生まれ変わりました。同時に、神はあなたが聖くなることを望んでおられます。益々聖くなるように、聖いキリストに似た者へ変えられて行くように、そのことを目標にして歩んで行くことです。この二つのことをもうすでにパウロは1節から12節で教えてくれました。そして、もう一度この12節でそのことを私たちに思い起こさせるのです。

3. 責任ある生活 13節

三つ目に見たいのは13節です。ここには「もし肉に従って生きるなら、あなたがたは死ぬのです。しかし、もし御霊によって、からだの行ないを殺すなら、あなたがたは生きるのです。」とあります。実は、パウロはここで「責任ある生活」を言います。「服従の生活」、「聖潔の生活」だけでなく「責任ある生活」です。私たち信仰者には大切な責任があるとパウロは言うのです。「もし肉に従って生きるなら、あなたがたは死ぬのです。」と言っています。これは肉体的に死ぬことを言っているものではありません。これは永遠の滅びのことです。そして、「御霊によって、からだの行ないを殺すなら、あなたがたは生きるのです。」、これは永遠のいのちのことです。さて、そうすると、私たちに疑問が出て来ます。それは「これはクリスチャンに対する教えですね。パウロはイエスを信じて救われていながら肉に従って生きるなら、救いを失ってしまうと言っているのでしょうか？いただいたその救いを維持するためには、からだの行ないを殺し続けていかなければいけないのですか？」と、そのように受け取れるのです。

でも、聖書はそのようには教えていません。なぜなら、もうすでに見て来たように、8章1節と39節の二つのみことばを見ると、これらは私たちに「神によって救われた者は永遠に救われている」と、そのことを明らかにしているのです。1節「…キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してあり

ません。」、39節「…私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。」、神があなたを救ってくださったなら、その救いは絶対に失われることはありません。強調していることは、神が救ってくれたということです。自分で救われていると思っている場合は別です。救いは神が与えてくれるものです。私たちが努力をして獲得するものではありません。神があわれみをもって罪人に与えてくれるのです。イエス・キリストを信じる信仰によって、信じるすべての人にこの救いが与えられるのです。神からの恵みです。でも、神がその人を救ったらその救いは永遠のものです。永遠に保証されているのです。ですから、パウロはそのようなことを言ったわけではありません。しかし、なぜ、このようなみことばがここに入っているのでしょうか？それは「自分の信仰を吟味するため」です。

○信仰の吟味を促す

確かに、聖書を見たときに、みことばは私たちに「あなたの信仰が本物かどうかを吟味するように」とチャレンジすることがあります。パウロはここで「クリスチャンは救いを失うことがある」と、そのようなことを教えようとしているわけではありません。「自分の信仰をよく吟味しなさい」と言っているのです。

a) キリスト者でない人

そして、13節「肉に従って生きる」ということは、もう何度も学んでいるように、肉の奴隷として肉に従って歩んでいる者たちです。その人たちは結果として永遠のさばきに至ると言います。ガラテヤ人への手紙を思い出しませんか？5：19-21「肉の行ないは明白であって、次のようなものです。不品行、汚れ、好色、：20 偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、：21 ねたみ、酩酊、遊興、そういった類のものです。前にもあらかじめ言ったように、私は今もあなたがたにあらかじめ言うておきます。こんなことをしている者たちが神の国を相続することはありません。」、このように生きている人、このような生き方が特徴となっている人たちです。これらの罪を一度でも犯したからではありません。このような生き方をしている人たちのことです。彼らは「神の国を相続することはありません。」、救いに至ることはない、救われないということです。救われていないからこのような生き方をしていると言うのです。ですから、そのような人たちは「死ぬ」、永遠の死、永遠の滅びです。

b) キリスト者である人

ところが、「からだの行ないを殺すなら、」とあります。「からだ」とは「肉」と同意語です。「からだの行ないを殺し続ける」もの、つまり、罪から離れようとすることです。私たち信仰者の生活における葛藤は、私たちの贖われていないこのからだ、私たちがかつての生き方に戻そうとすることです。自分中心の肉に従って生きる、そのような生き方に私たちを戻そうとすることです。ですから、私たちはその中であって、その罪から離れて行こうとします。そのような罪に対して勝利し続けて行こうとするのです。どうしてですか？救われているからです。救われている人は罪を放って置けないのです。神に逆らうことを「良し」とはできないのです。心が苦しむ、痛むのです。そのような生き方を一秒でも長くすることは耐えられません。ですから、そのような罪から離れて行こうとすることです。彼らは救われているからそのようにするのです。だから、「あなたがたは生きる、永遠のいのちがある。」と言います。

ですから、パウロは敢えてこの13節に、救われている人とそうでない人とをもう一度記しているのです。あなた自身は大丈夫ですか？と。そして、パウロはそのことを明らかにすることによって、正しく生きて行くことの大切さを教えているのです。なぜなら、13節の後半に「からだの行ないを殺すなら、」とあるその前に、「もし御霊によって、」とあるからです。つまり、信仰者として生きて行くためには助けがいるということです。聖霊なる神の助けが必要なのです。その助けをいただきながら生きて行かない限り、私たちは勝利ある生活を送ることは出来ないのです。エペソ人への手紙1章の中でパウロはこのようなことを言いました。1：19「また、神の全能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるかを、あなたがたが知ることができますように。」と。パウロはここで、クリスチャンの皆さん、あなたにはすごい力が与えられている、神の力が与えられている、そのことを知らない人が多い人が多すぎる。だから、私が願うのは、あなたに与えられた力がどんなにすごいものか、そのことにあなたが気付くことと言うのです。ひょっとしたら、あなたの生活にそれは必要かもしれません。信仰生活の中であなたはもう自分自身に対して絶望を覚えているかもしれない。「私はもうダメだ。信仰者として失格だ。何度トライしてもダメだ。」と。考えなければいけないこと、また、覚えなければいけないこと、問いかけてみなければいけないことは、「私は聖霊なる神の力をいただきながら生きているのかどうか。」です。

最後に皆さんに、信仰者として私たちは「どのように勝利ある生活を送って行くべきか」について、簡単に五つのことを言います。ぜひ、覚えてください。あなたが信仰者として神に喜ばれる歩みを為して行くために必要なことです。

○正しく生きることの重要性 = 勝利ある生活を送るために

(1) 自分の弱さを知ること

まず、自分の弱さを知ることです。皆さん、私は大丈夫だと思った瞬間に滑りませんか？自分でできると思った瞬間に失敗するでしょう。私たちがいつも覚えておかなければいけないことは、私たちは弱い存在だから、いつも神の助けが必要だということです。神の前に高慢であるのではなく、へりくだっていないければいけないのです。自分の本当の姿、自分の弱さを知ることです。

(2) 祈り

神の助けが必要なのです。イエスはこのように言われました。マルコ 14 : 38 「**誘惑に陥らないように、目をさまして、祈り続けなさい。心は燃えていても、肉体は弱いのです。**」、私たちはどうすればそのような誘惑に打ち勝つことが出来るか？祈ることです。神に助けを求め続けることです。

(3) みことばを蓄える

聖書のことばを蓄えるのです。詩篇 119 : 11 には「**あなたに罪を犯さないため、私は、あなたのことばを心にたくわえました。**」とあります。罪を犯さないためにみことばを蓄えたと言います。諦めていませんか？「私はみことばを覚えることができません。」と。工夫することです。なぜなら、みことばをしっかりとあなたのこころの内に蓄えることは、あなた自身がそのような誘惑に勝利することができる秘訣だからです。

(4) 悪から離れる

I テサロニケ 5 : 22 に「**悪はどんな悪でも避けなさい。**」とあります。あなたを誘惑するものから遠ざかることです。あなたが失敗することから遠ざかることです。私たちはトラブルに巻き込まれるようなことから出来るだけ遠ざかろうとします。信仰生活も同じことです。私たちがすぐに誘惑に負けてしまうのなら、その誘惑からできるだけ距離を置くことです。

(5) 励まし合う

もう一つ、私たち信仰者はお互いに「励まし合う」ことです。I テサロニケ 5 : 11 「**ですから、あなたがたは、今しているとおり、互いに励まし合い、互いに徳を高め合いなさい。**」、つまり、信仰において成長するように励まし合って行きなさいと言うのです。もし、皆さんが教会の中で「私はこの点が弱いからどうぞこの点において成長できるように祈ってください」と、そのように言える友を得たとするなら、あなたはすばらしい信仰の友を得たのです。そのようにして私たちは成長するのです。みな弱いのです。みな祈りが必要なのです。みな励ましが必要なのです。そのように互いに励まし合いながら成長することです。

今日、パウロは私たちに、あなたは神からすばらしい祝福をいただいている、その祝福をいただいている者として、あなたはそれにふさわしい生き方をしなさいと教えました。あなたは神に従順に生きる者として生まれ変わったのだからそのように生きなさいと。あなたは聖潔に歩む者、生きる者として歩んで行きなさい。聖さを求めて生きて行きなさい。そして、責任ある生き方をしなさい。あなたは大切な責任を神からいただいたのです。その様な歩みを為して行くために、詩篇の著者はこのようなことを言っています。詩篇 103 : 2 「**わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。**」。私たちの課題は、神の為してくださったすばらしいみわざをしっかりと覚えて、どんなに大きな祝福をもう私はいただいているのか、そのことをしっかりと覚えて生きて行くことです。なぜなら、その祝福を覚えるときに、主が為してくださったみわざを覚えるときに、私たちはこの方に対して内側から感謝が生まれて来るからです。そのようにして私たちは生きて行くのです。そのようにして私たちは主が喜んでくださる歩みを為して行くのです。

信仰者の皆さん、そのように生きて、私たちの神がどんなにすばらしい偉大な方かをこの世に明らかにすることです。